

第27回
外国人による
日本語スピーチコンテスト

2018年2月25日（日）午後1:00~4:30
ところ／県民文化センター小ホール
主 催／公益財団法人茨城県国際交流協会
共 催／茨城県

* 茨城県議会議長賞

ラフマント（インドネシア出身）

「日本人は嘘が上手です」

日本語学校に通っていたとき、「日本人は嘘が上手です。口から出た言葉は本当に言いたいことと違うときがあるのでそのまま受け取らない方がいいです」と先生に注意されたことがあります。「どういうことだろう？」と私は思いました。今日は、この先生の注意について、今日までに私が経験したことを含めてお話ししたいと思います。

日本語学校を卒業した後、香川高等専門学校に入学しました。日本語学校の時は日本人の友達がなかなか作れなかったのですが、高等専門学校に入ってからたくさん日本人の友達ができました。それと同時に疑問に思ったことがあります。

学校の友達をごはんに誘ったとき、「考えとくよ。」と言われたことがありました。こう言われたら普通は答えを期待して待つかなと思いましたが、でも結局何も連絡がなくて行きませんでした。その後、別の人に「行けたら行くよ。」と言われましたが、結局その人も行きませんでした。なるほど、これが日本人の断り方の一つだと気づきました。今では、「考えさせてくれ。」とか「気が向いたら行く。」とか言われたら、「ああ、この人ぜったい行かないな。」と思ってしまうようになりました。誘いを断る時、なぜ直接「ごめん、行けない。」と言わなかったのでしょうか？

また、今年の4月に奨学生の認定式で、新しい日本人の友達ができました。野球の話が出たとき、彼に「野球は上手ですか？」と聞いたら、彼は「高校の時、野球部に入ってちょっとやっていた。」と答えました。その後いろいろ聞いたところ、甲子園に出場経験があることが分かりました。つまり、彼の野球の上手さは“ちょっと”どころではなかったのです。なぜ最初から上手だよと言わなかったのでしょうか？

最初のうちはこのような日本人の話し方が嫌いでした。絶対直接言った方が勘違いもないし、意味もすぐ相手に伝わると思いました。しかし、しばらく日本にいて日本人の考え方や文化をだんだん理解してきた今、日本人が自分の率直な気持ちを言わない理由が少しわかってきました。

日本人は子供のころから学校や家庭で「相手の気持ちを考えて行動しましょう。」ということを手伝っているため、常に相手を尊重しています。つまり、相手を傷つけないよう言葉を選んで話します。相手の欠点や都合の悪いこと、自分の長所や都合の良いことはあまり言いません。結果このように曖昧な表現、婉曲的な表現をよく使います。

確かに友達は、私からごはんを誘われたときに「行けない。」と答えてしまったら、日本人と交流したい私が傷つくかもしれないと思って、「考えておく。」と答えたのかもしれない。もう一人の友達は知り合ったばかりの私に「野球が上手だよ。」と言ってしまったら「何この人、自慢するの？」と思われるかもしれないと考えて、「“ちょっと” 野球をやっていました。」と言ったのかもしれない。

このような婉曲的な表現、曖昧な表現は日本にしかなく、日本人しか使わないからこそ外国人にとっては注意が必要で、日本人と話すときは空気を読んで相手の真意をくみ取らなければなりません。これは日本語が難しい要因の1つであり、日本語学校の先生はこのことを「日本人は嘘が上手」と表現したのだらうということに気がつきました。

しかし、マスターしてしまえば、表現の幅が広がります。状況の細かい機微など、より詳細な情報を言葉に込めることができるようになります。修得が難しいですが、このような表現の幅が広い日本語は日本の美しい文化の1つだと思います。